自分だけの
かわいい豆本ストラップを
作ろう！

平成２９年５月２９日（月）

平成２９年度　福岡県立図書館「製本に関する研修等」講師養成講座

「豆本ストラップ作成」テキスト

必要な道具

○　本文用の紙（７．４㎝×５．３㎝）４枚
　　※Ａ４の用紙を４回半分にしたサイズ
○　見返紙（７．４㎝×５．３㎝）２枚
　　※本文用の紙と同じサイズ
○　表紙用クロス（９．６㎝×６㎝　以上）　１枚
　　※大きめに準備しておくと、見える柄を調節できます。
○　板ボール（３㎝×４㎝　２㎜厚）　２枚・（０．６㎝×４㎝　２㎜厚）１枚
○　厚紙（９．６㎝×６㎝　以上）
○　しおり紐　４㎝
○　刺繍糸

本文用の紙は、コピー用紙でも可
見返し紙は今回和紙風折り紙を使用
表紙用クロスは、市販の布・千代紙風折り紙を使用
ただし、豆本なので、模様は細かい方が良い
板ボールは、２㎜厚のものを使用
刺繍糸も手芸用の糸

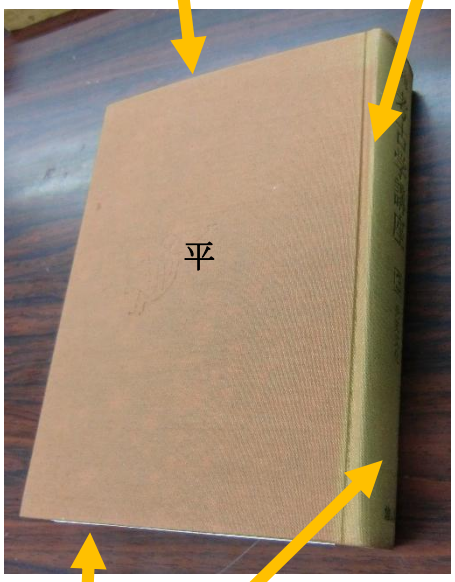
○　ボンド
○　捨て紙　１０枚程度
○　筆記用具
○　布巾　２枚
○　定規
○　カッター
○　はさみ
○　カッティングマット
○　ゴムへらもしくは筆
○　ボンド入れ
○　かけへら
○　串　２本
○　クリップ　１個
○　針　１本
○　目打ち　１本
○　目打ちを使う際に下引くもの（電話帳等が良い）
○　ストラップ　１個

針は刺繍用の少し太い針の方が使いやすい。

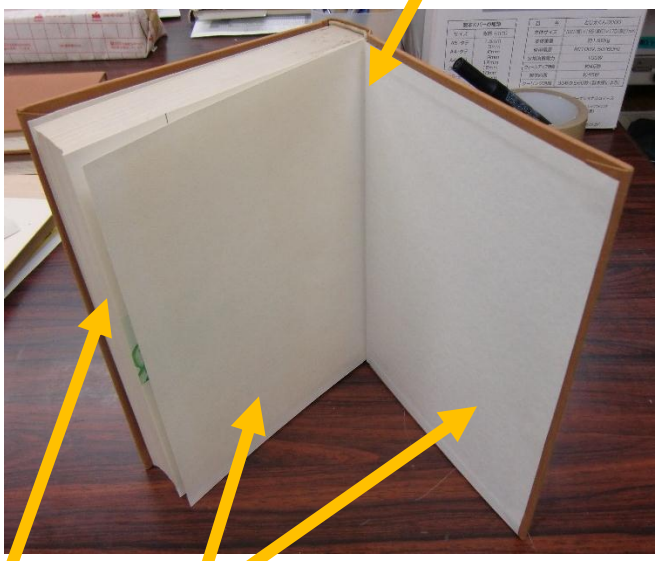
製本する時に知っておきたい本の各部名称

天　本の上の部分

溝　表紙と背のつながる部分にあるくぼみ



のど　本の綴じ目の付近



背　本を綴じている一辺

地　本の底の部分

見返し　表紙と中身をつなぐはたらきをする紙

前小口　背以外の三辺を小口と言う
「前小口」は背と向かいあう辺

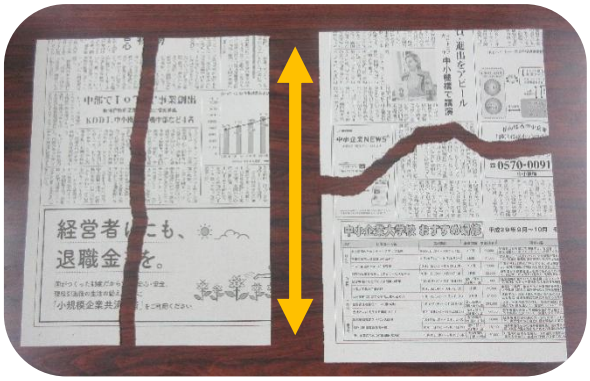
豆本作りを始める前に知っておきたい紙のこと

紙の目とは

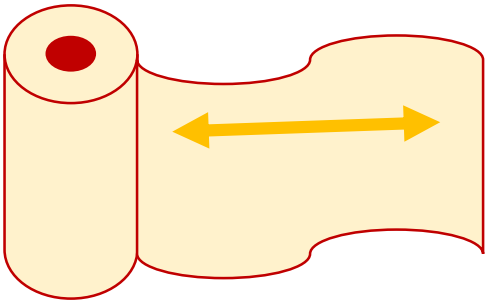
紙は、抄紙機（紙を抄く機械）でパルプを一定方向に流しながら製造されます。
そのため、進行方向に繊維が揃いやすく「紙の流れ目」ができます。できた流れ目を、紙の目と言っています。

紙の目を確かめる方法

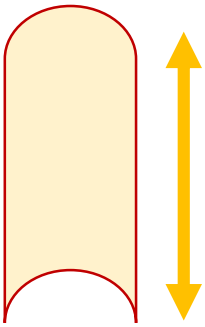
紙を裂いて比較的真っ直ぐに裂ける方向が縦目



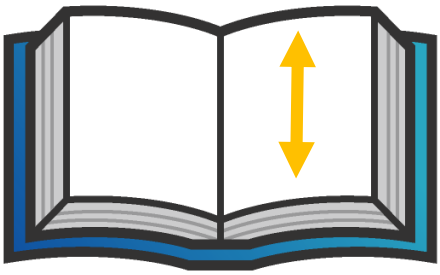
一般的に巻いてある方向が縦目



濡れた時、目と並行にカールする



本は一般的に開きやすいように縦目で作られています。



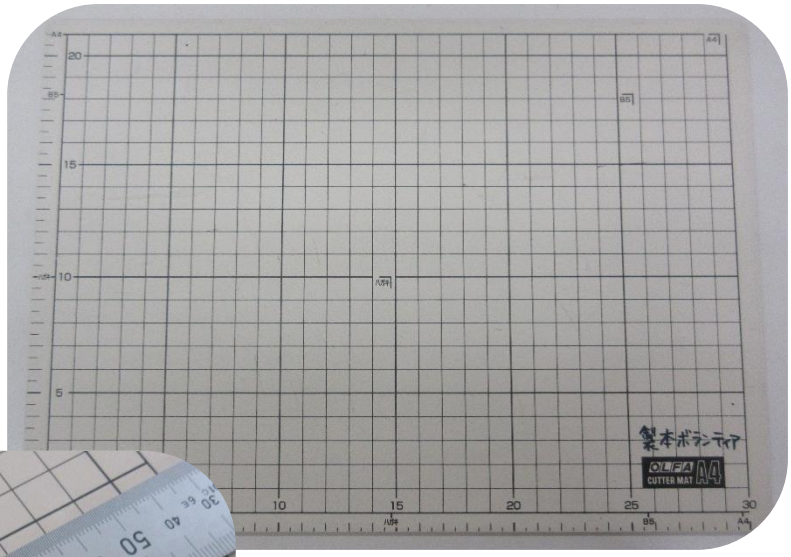
ですから、豆本を作る場合も、紙の目を意識して、必要なサイズの紙を準備します。

豆本作りを始める前に知っておきたい
美しくサイズどおりに、真っ直ぐカットする方法

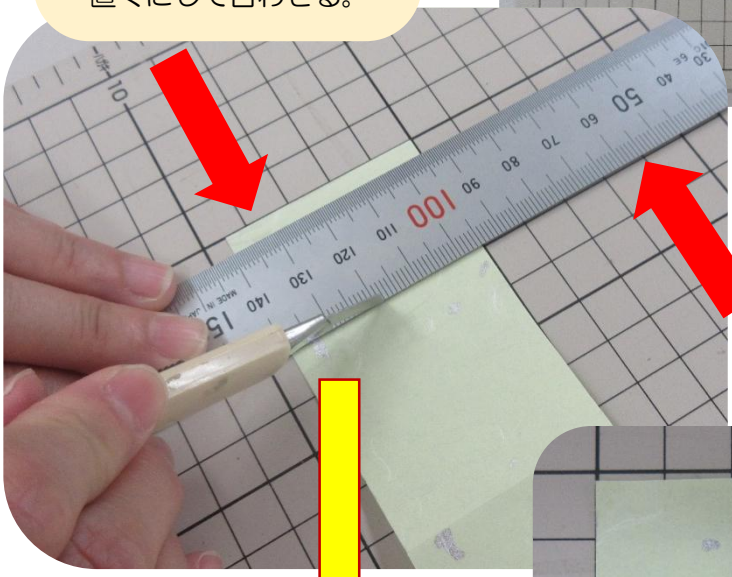
豆本作りに限らず、本を製本、補修する際には、㎜単位で正確にサイズどおりに真っ直ぐカットする技術が必要です。
美しくカットできると仕上がりがぐんと違います。
そこで、カッティングマットのマス目を利用してカットする方法を知っておきましょう。

このカッティングマットのマス目は１マス１㎝×１㎝です。
（５㎜×５㎜のものもありますので確認してください。）

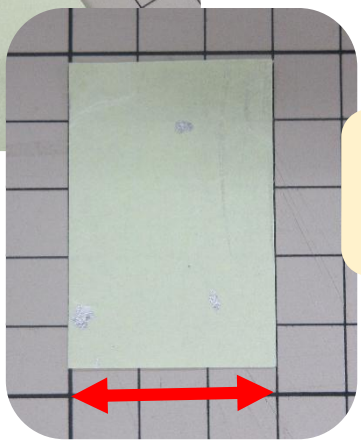
例えば３㎝×４㎝の紙を切る時は



紙の端をマスの線にぴったり合わせる。
紙の端が真っ直ぐでない場合は、一度定規で端を落として真っ直ぐにして合わせる。

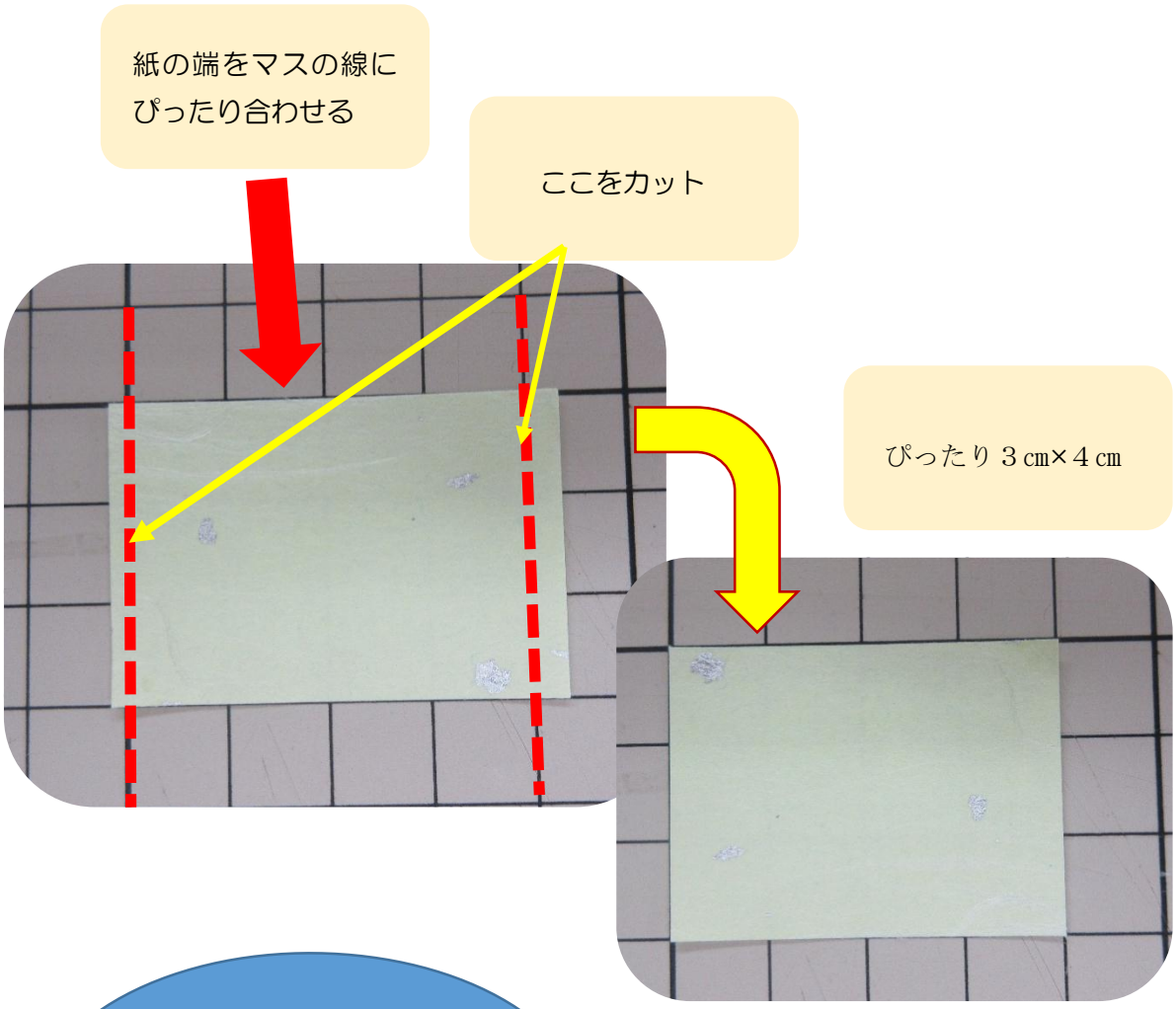


定規を３マス目の線にぴったり合わせて切る



ぴったり３㎝

３㎝の幅に切れたので、４㎝にカットします。

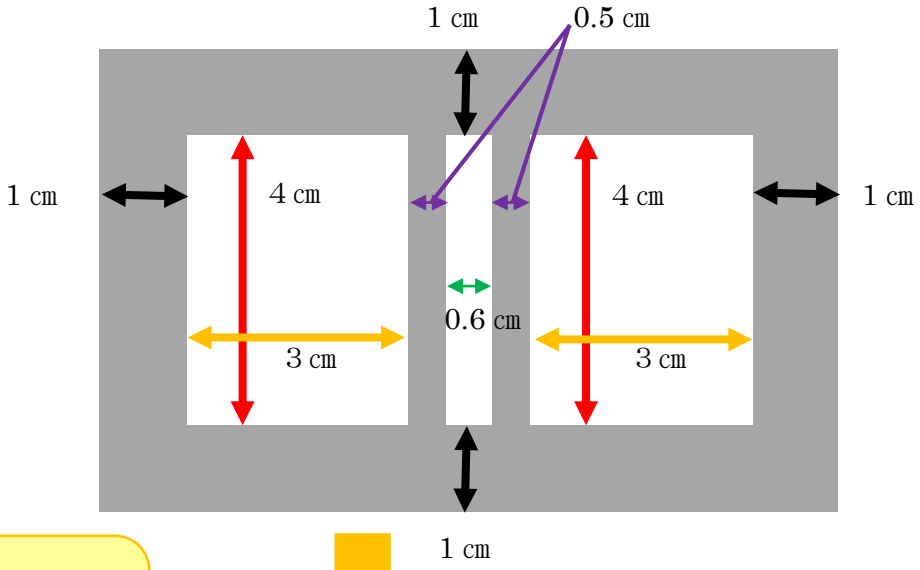


では、早速豆本作りを始めましょう。

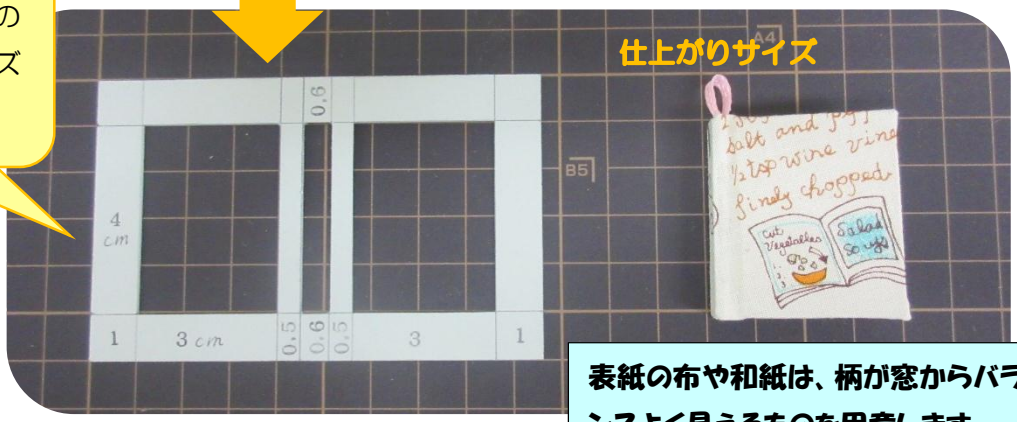
ゲージ作りは、思っているより時間がかかります。
研修の時間を短縮するならば、先に作って配布すると良いです。

1　ゲージを作成する

厚紙でゲージを作ります。
ゲージがなくても豆本は作れますが、作っておくと、とても便利です。
豆本の仕上がりサイズは、3.5 ㎝×４㎝です。
ゲージのサイズは図のとおり



カッティングマットのマスを使って、サイズどおりに作ります。



表紙の布や和紙は、柄が窓からバランスよく見えるものを用意します。
何種類か用意し、受講者へ選ばせてあげると、喜ばれます。

2　本の表紙をカットします。

表紙にしたい、布・和紙等にゲージをあて、ゲージの周りにあわせてカットします。

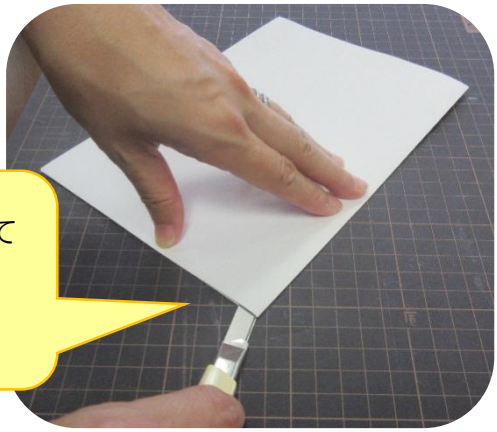
窓から見えている部分が表紙・背・裏表紙になるので、お気に入りの柄が出るようにカットしましょう。

ここはざっくりで大丈夫

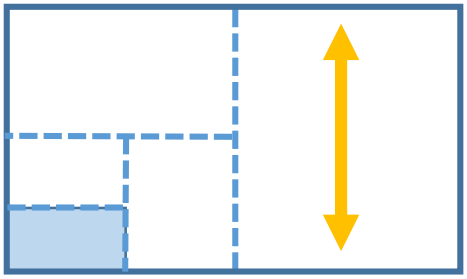
基本は紙の目を考えて作成しなければなりませんが、豆本の場合は、厳密にしなくても大丈夫です。

３　本文紙を作成します。

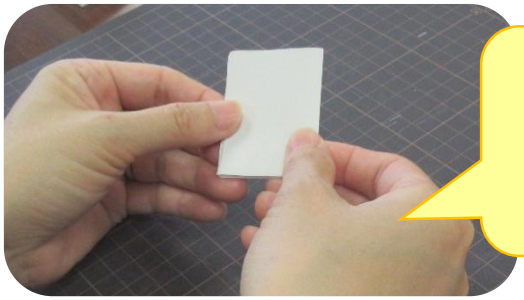
本文は全て縦目で作る事が理想的です。
可能であれば、紙の目を確認して本文を準備しましょう。
ヨコ目（短辺と平行に繊維が流れている）Ａ４の紙を４回半分にカットしたサイズの紙を５枚・同じサイズの見返紙を２枚用意します



化粧断ち（小口を切って整える事）をするので、ここはざっくりと。

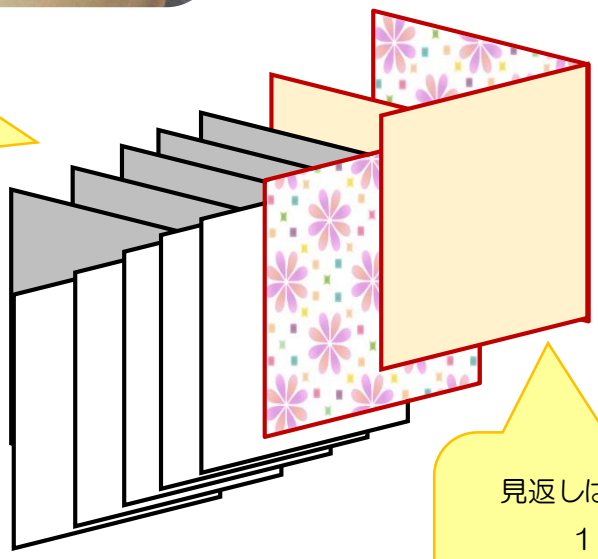


このサイズを５枚



１枚ずつヘラを使って半分に折ります。ここは丁寧に

本文紙５枚と見返し２枚を重ねます



見返しは見せたい柄を
１枚は外へ
１枚は中へ
折って重ねます

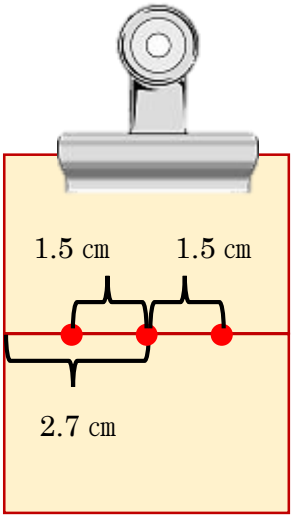
分かりにくい部分です。
実際にして見せてあげましょう。

４　パンフレット製本をします。

７枚重ねた折り丁を糸で綴じます。

クリップは、もっと小さいダブルクリップの方がしやすいかもしれません。

折り丁を
クリップで止めます



中央 2.7 ㎝
中央からそれぞれ
1.5 ㎝に
印をつけます

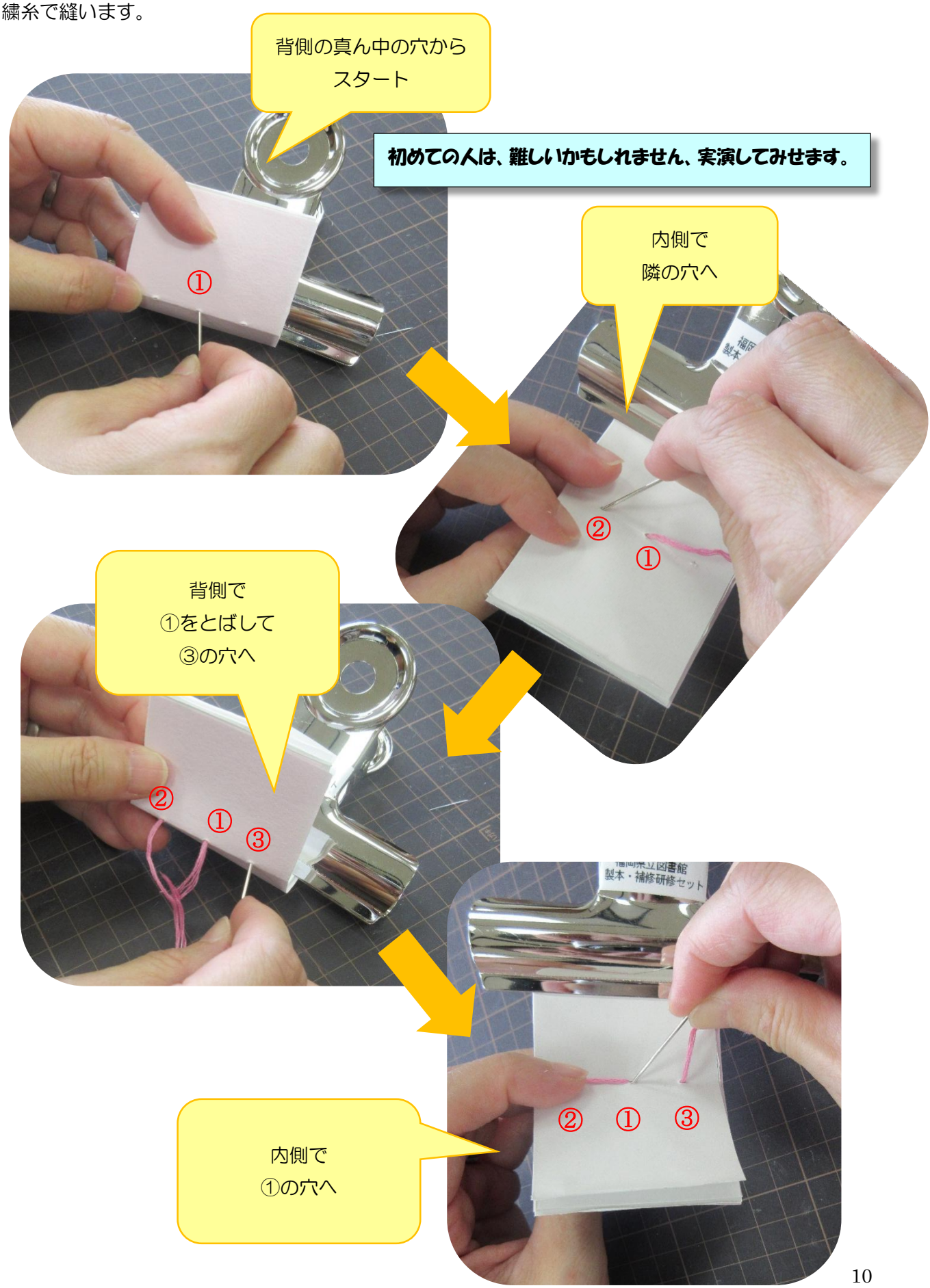
事前にゲージを作っておくと良いです。

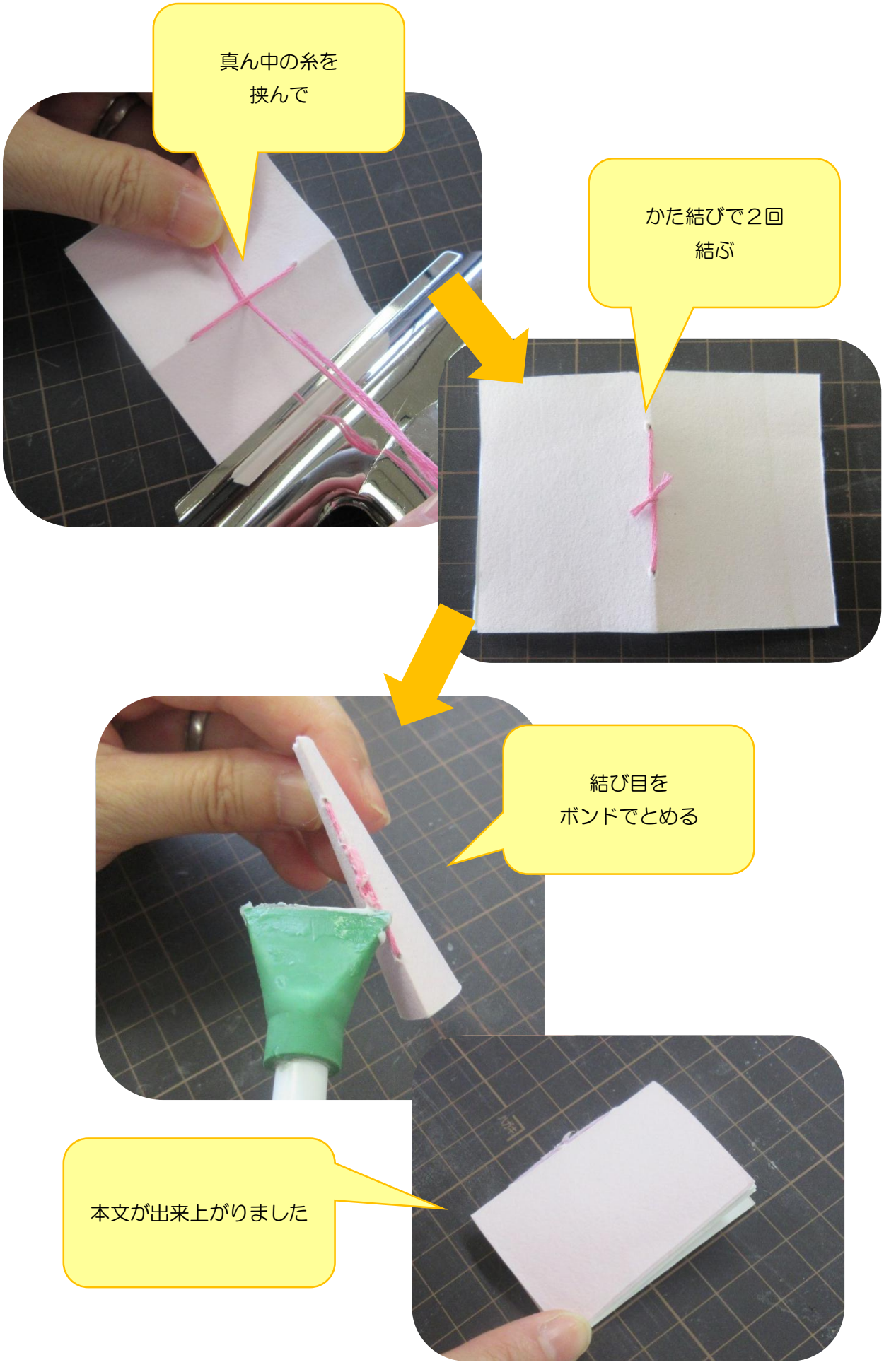
目打ちで印の所に穴をあけます。

９０度に折って
あけるときれいにあきます

下に廃棄用の資料等を引かないと、机やカッティングマットが傷つきますので、注意

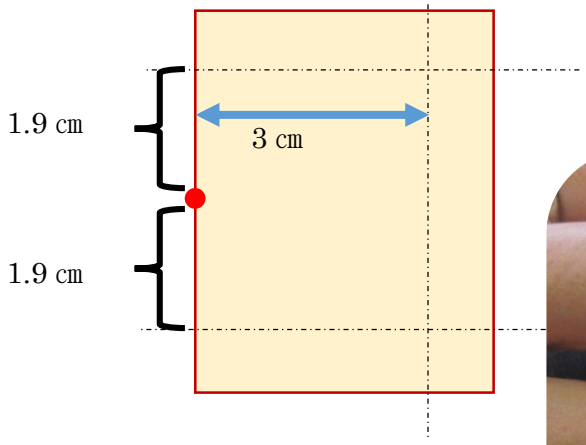
刺繍糸で縫います。


背側の真ん中の穴から
スタート
初めての人は、難しいかもしれません、実演してみせます。
①
内側で
隣の穴へ
②
①
背側で
①をとばして
③の穴へ
②
①
③
内側で
①の穴へ
②
①
③


真ん中の糸を
挟んで
かた結びで２回
結ぶ
結び目を
ボンドでとめる
本文が出来上がりました

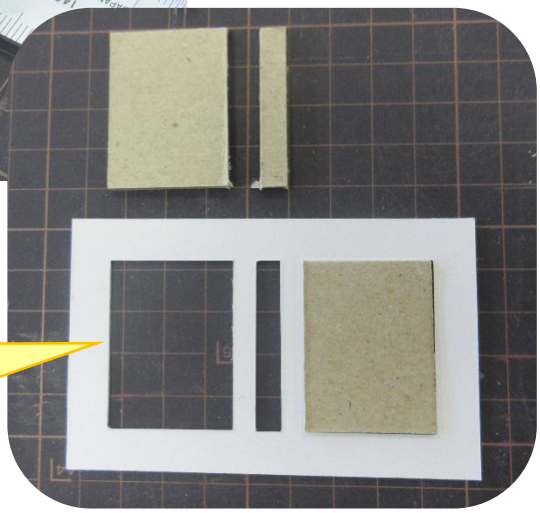
５　化粧断をします。

背から３㎝、結び目から 1.9 ㎝のところに印をつけてカットします



６　板ボールをカットします。

３㎝×４㎝を２枚・0.6 ㎝×４㎝を１枚カットします。



板ボールも先に切った物を用意すると、
時間が短縮できます。

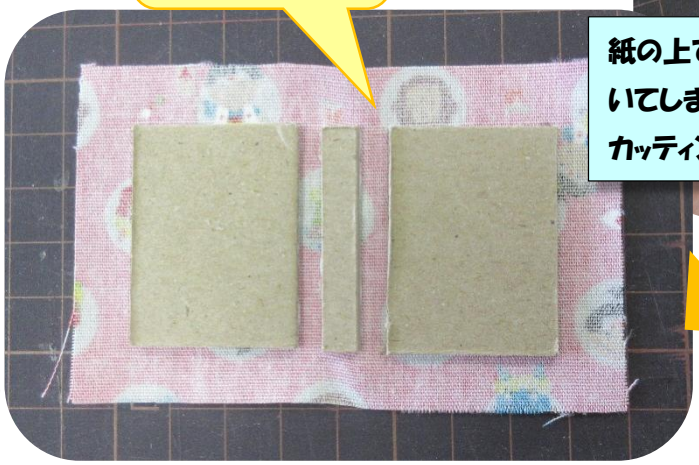
7　表紙を作ります。

表紙にゲージで、板ボールを貼る場所の印をつけます。

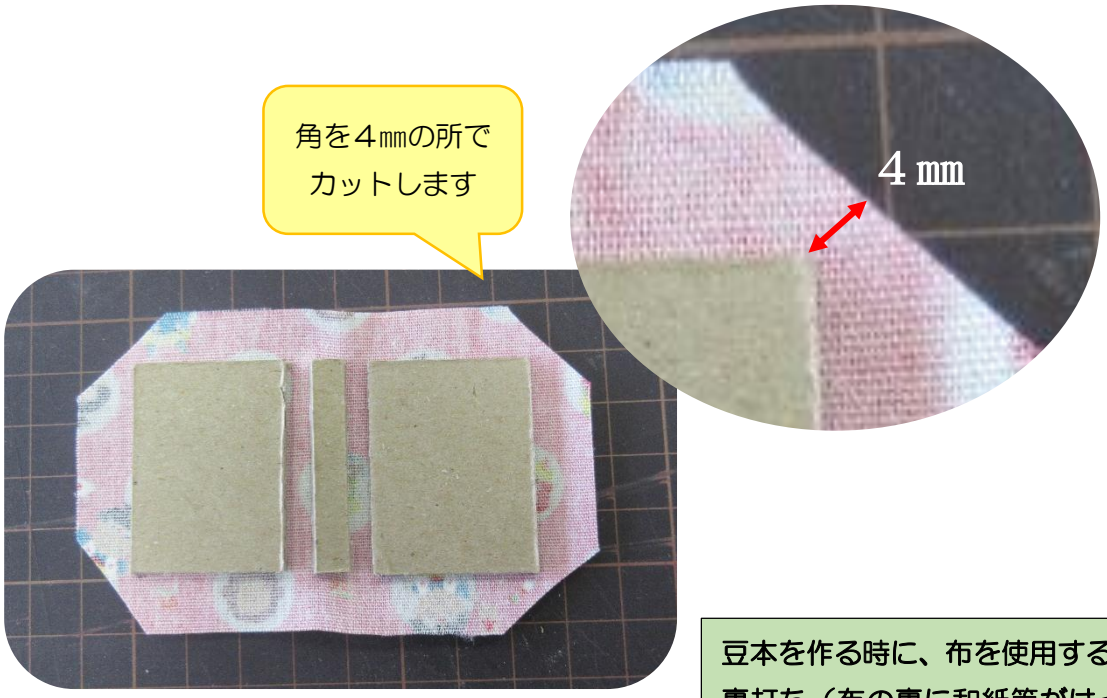
貼る位置が
わかれば大丈夫です

板ボールにボンドを塗ります。
ボンドは水で薄めません。
水分が多いと布から染み出てきます

全て貼ります



紙の上で作業すると、染み出たボンドで紙が表紙に付いてしまう事があります。
カッティングマットの上で作業するようにします。



豆本を作る時に、布を使用する場合は、裏打ち（布の裏に和紙等がはってあるもの）してある布を使った方が、綺麗にできあがります。
しかし、手に入りにくいので、裏打ちの無い布を使う場合は、ボンドを薄めずに使う事で、にじみ出る事を防ぎます。
大量にボンドを塗ると、染み出てくるので、気をつけましょう。

天地をボンドで貼ります。
豆本の下に捨て紙を２枚ひきます。
ボンドは、薄めず、できればゴムべらを使います。

ボンドのついた紙を捨て、２枚目の紙ごと
引っ張り上げ表紙を板ボールに接着する

天地両方貼ります。

角をかけへらで板ボールに
しっかりつける。

わかりにくいので、実演して見せます

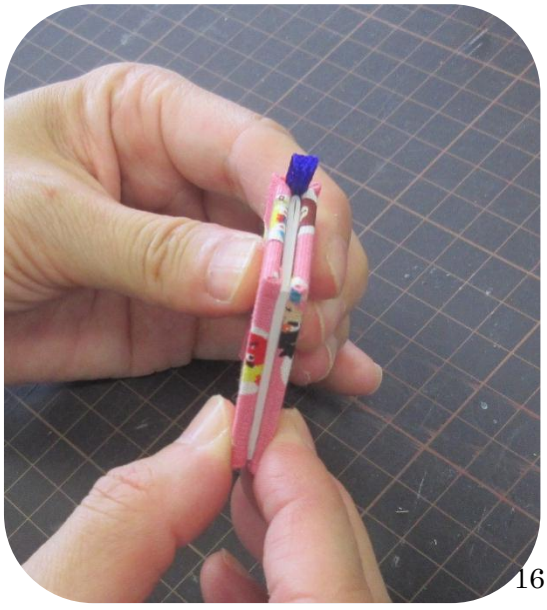
角を処理したら、天地同様に
小口もボンドで板ボールに接着する。

８　しおり紐をつけます。

ストラップにするために、しおり紐を表紙内側の天にボンドでつけます。

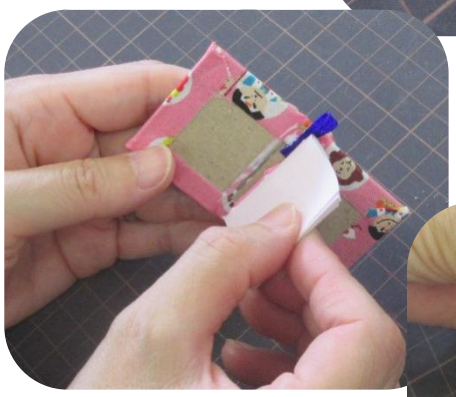
９　表紙と本文を接着します。

ボンドをつける前に、表紙に本文を合わせてみます。
本文が表紙におさまるか
チリが綺麗に出ているか確認します。
本文が表紙から出たり、チリが足りない時は、
本文をカットします。

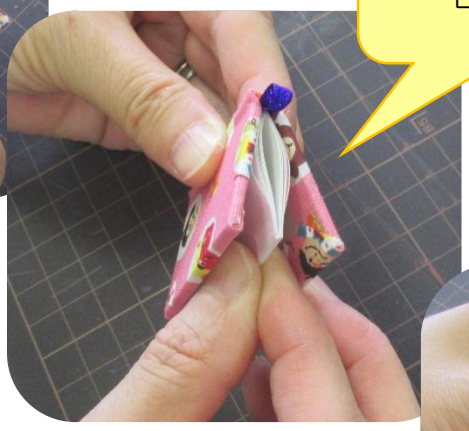


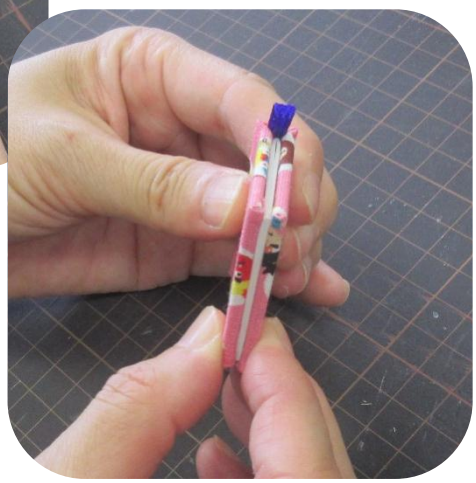
ミゾにボンドをつけます

開きを良くするために
背にボンドをつけません



本文を背にしっかり
合わせます





かけへらで
みぞをつけます

ミゾに串を入れ
クリップではさむ

１分ほどそのままで・・・

１０　見返しを接着します。

一番外側の見返しの下に
捨て紙をひいて
ボンドをつけます

捨て紙を外し
表紙をとじて
接着します。

見返しを両方つけたら・・・

いかがでしたか？
納得のいく豆本ができましたか？
何個か作ればコツがすぐにつかめます。
最初に作ったゲージを使って、ぜひ何個か作ってみてください。

参考文献

・赤井都『豆本づくりのいろは』増補新版（河出書房新社　2014 年）
・『豆本の教室』（スタジオ　タック　クリエイティブ　2013 年）